



親元就農

水稻

富山県下新川郡入善町

株式会社アグリライズ南保 代表取締役

藤澤 ちひろ さん（富山県出身）

幼少期の農業との関わり

- 幼少期からの農業との関わりをお伺いできますでしょうか。

小さいころは祖父と同居しており、祖父は専業農家として農業をしていました。父が小さい頃は、酪農も手がけていたようなのですが、私が物心ついたときは水稻をメインにしていました。父も祖父を手伝う形で兼業農家をしていたのですが、私が保育園児のころに祖父が他界したため、父が専業農家となり跡を継ぎました。

そんな環境だったので、小さいころから私も農作業の手伝いをしていました。以前はキャベツも栽培していたので、両親や祖母が収穫したキャベツを段ボールに詰めたり、田植えや稲刈りなども手伝っていました。

- 小さなころからお手伝いをされていたんですね。手伝うことに抵抗感はなかったのでしょうか。

「すごく楽しい！」というわけでは無かったですが、不思議と嫌ではなかったですね。純粋に、「手伝うのが当たり前。当然やるもの」という環境だったので、疑問に思うこともなかったです。私は3姉妹の真ん中なのですが、姉妹全員が手伝っていたのも、当たり前と思う要因だったかもしれません。

- 3姉妹で手伝っていたというのは、とても楽しそうですね。ちなみに、お小遣いなどはもらったのでしょうか。

まったく、無かったです(笑)。当時は、本当に当たり前だと思っていたので特に不満もなかったですね。ただ、今は自分の子供たちにも手伝ってもらっているのですが、子供にはお小遣いを渡しています。時代の変化ですかね(笑)。

これまでの経験について

社会人時代のこと

- そのような農業に囲まれていた環境ということは、高校は農業系に進学されたのでしょうか。

高校は、農業とまったく関係ない薬学系の高校に進学しました。薬品系に興味があったというよりは、中学校から部活でバスケットボールをしていたのでバスケットボールが強い学校ということで選びました。高校では授業で、白衣を着て実験などもしていたんですよ。その流れで、卒業後は富山市にある医薬品関係の企業に就職しました。

進学や就職するときに、農業という選択肢は特に浮かばなかったですね。自分の中で、「農業は手伝うもの」と思っていたので、「自分でやる」という選択肢が浮かばなかったんだと思います。それに、親からも特に「継いでほしい」とも言われなかったなので、自分の好きなように決めました。

- そうだったんですね。就職後は、どのような業務を経験されたのでしょうか。

就職先の医薬品関係企業では研究関係の業務を行っていて、仕事自体は楽しかったのですが、あまり自分に合わないと感じる場所もありました。当時は、いわゆる研究スペースのようなところで一日中研究していたのですが、学生時代から運動部で体を動かすことが好きだったこともあり、もう少し体を動かせるような仕事をしたいと思うようになりました。その後は、もともと車が好きだったのと知り合いの縁もあり、車関係の会社で仕事をする事になりました。車関係の会社では主に事務を担当していたのですが、その他にも洗車などの作業で体を動かす機会も多くありました。



- 社会人になってからは、あまり農作業のお手伝いなどはされていなかったのでしょうか。

実は、社会人になった後も仕事が休みの日は実家の農作業を手伝っていました。というよりも、行かないと母から電話がかかってきていたので…(笑)。叔父たちも農作業の手伝いに来ていたので、「叔父たちが来ているのに、娘が来ていないとは…」というような思いもあったようです。私だけでなく、妹も新潟で就職していたのですが手伝いに帰ってきていましたね。

社会人になってからは富山市に住んでいたのですが、一人目の子供を妊娠したときにつわりがひどく、なかなか家事をすることも難しかったので、一度実家に帰ってきました。出産を機に仕事は退職したのですが、退職するまでは入善から富山に1時間ほどかけて通うという生活を続けていました。冬場は農閑期なので、父が富山まで送ってくれたこともありましたね。主人は富山に住んでいたの、しばらくは入善と富山を往復する生活をしていたのですが、やっぱり実家ですごく楽だなとその時に感じました。

- そのような経緯で実家に帰られたんですね。改めて実家で過ごす中で心境の変化などありましたか？

ありましたね。学生や社会人のときは、スポット的な手伝いだけで、父の一日の仕事を見たことがありませんでした。それが、妊娠を機に実家に帰ることになり、初めて一日の作業を見るようになったんですね。そうすると、すごく大変だなと。米の乾燥機も夜中に見に行ってるし、朝も早くから田んぼの水を見に行ってるし。それに加えて、叔父たちが手伝いに来てくれた時は、お礼として毎晩自宅で宴席を設けていたので、その相手を父がしていたり、準備を母がしていたりなど。先ほどの乾燥機も、叔父たちの相手をした後でも見に行っていました。

また、宴席では父が、「娘しかいないから、自分の代で終わりにするつもりだ。」ということを漏らしていて、「いつまでも自分の家のお米を食べられないんだな。手伝ったら、少しでも長くお米をつくれるかな。」ということも手伝うきっかけの一つとなったと思います。また当時は、実家に居候しているような形だったので、なるべく追い出されないように、というところもありました(笑)。

そんな訳で、元々機械も好きだったし、育児のために仕事を退職したため時間に余裕もあったので、父に手伝おうかと申し出ました。一人目の子供が生まれた次の年の田植えから、手伝いをするようになりました。

- とてもお父さん想いの、すてきな娘さんですね。

小さい頃は、父と会話する機会が少なくて「すごく仲が良い」というわけではないのですが、不思議とそう思うようになりました。今でも会話は、比較的少ないのですが(笑)。

法人化について

- 現在は法人化されていると思うのですが、経緯などを教えていただけますでしょうか。

まず、私が手伝い始めた2年後(2012 年ごろ)に妹が手伝ってくれるようになりました。妹は新潟で就職していたのですが、会社の都合などもあり退職して、ちょうどそのころに入善へ戻ってきていて、次の就職先を探すまでのつなぎとして手伝いを始めてくれました。

そんな中で、父が自前の乾燥施設を建てたんです。もしかすると、私たちが跡を継いでくれると考えたのかもしれないですね。せっかくなのでいい施設も建てたことだし、ということで振興センターから法人化のお誘いがあり、法人化することになりました。



- 法人化したときは、スムーズに話し合いも進んだのでしょうか。

法人化にあたっては、かなり揉めました(笑)。当時、妹は農業を継いでいく考えはなく、でも父は施設を建ててしまったので頑張らないといけない、という思いもあり、なかなかまとまりませんでした。私が妹を説得する形で、法人化をスタートすることができました。

また、法人化した際に、青年等就農給付金の受給を申請しようという話になり、父と経営を分ける形で父から田んぼを分けてもらい、妹と二人の法人という形でスタートしました。今は私が社長をしているんですが、妹の方が社交的なので、当初は父も周りの人も、社長は妹のほうがいいんじゃないかと思っていたみたいです。ただ、妹は「社長はやりたくない」という考えだったので、私が引き受けることにしました。

- ちなみに、法人化して本格的に農業に従事するにあたって、研修などは受講されたのでしょうか。

長期間の研修は受講していないのですが、とやま農業未来カレッジの経営塾や、県主催のセミナーに参加しました。それ以外の技術的なことについては、基本的に父から教えてもらいました。

- 法人化後に苦労されたことなどはありますか。

作業的な部分は、父と妹がいたので、特に問題はありませんでした。元来、「とりあえずやってみる」という性格なのでそれも良かったのかもしれませんが。大変だった部分で言うと、事務的なところが苦労した部分かもしれません。経理関係は会社と父の分を両方やっていたので、慣れない部分もあり大変でした。その他には、「法人の代表」として会合や集会に行く機会が増えました。ただ、全体的に楽しみながらやっていたし、体を動かすことや機械を操作することは苦ではなかったので、総じて、楽しかったことのほうが多いかもしれません。

また、このあたりの地域は比較的若い農業者が多く日ごろのつながりもあるため、悩みなどを相談したりできたのも良かった点かもしれません。法人の社長が女性である、ということについても、私が就任する前から近隣に1軒あったため、その方がされているならやってみよう、と思えたところもありました。

- ちなみに、面積が増えたり、それに伴って従業員も増えたり、などはあるのでしょうか。

私が父を手伝い始めた時は16haほどの面積だったのですが、今は65haほどを耕作しています。耕作しなくなった方から預かる形で、少しずつ増えてきました。ただ、父のころから農地集約の話し合いをしており、ほ場自体はそれぞれが比較的近い位置にあります。

また、法人化した次の年(2016年ごろ)には、妹の主人も会社に参加してくれるようになり、2018年ごろには姉も会社に参加してくれるようになりました。姉に参加してもらったのは、GAPを取得するためです。私自身がGAPを取得したかったんですが申請書類の作成がとても難しく感じていて、頭の良い姉に手伝ってもらえたら申請できると思い、姉を誘いました。最初はとても反対していて、参加してもらうまでに2年ほどかかりましたが(笑)。

なので、今は最大6人(父、母、姉、私(藤澤さん)、妹、妹の主人)で農作業をしています。たまに親戚に手伝ってもらうこともあります。基本的には親族以外の雇用などは行っていないですね、今後の展望なんかを考えると、従業員を増やして育てて行きたいのですが、なかなか経験もなくて悩んでいます。

- 今後の展望のお話がありましたが、何かお考えのことなどはあるのでしょうか。

今すぐに、というわけではないのですが、いつか「農家カフェ」をやりたいというのが当初の夢でした。これまでも「玄米コーヒー」や「ジェラート」などの6次産業化に取り組んできました。米の消費量が減っている中で、若い人たちに「米の良さ」を伝えていきたいと思っているので、販路の開拓にも取り組んでいきたいと考えています。

就農希望者へのメッセージ

- 貴重なお話、ありがとうございました。最後に、就農希望者へのメッセージやアドバイスをお願いします。

これから農業を目指す方には、自分のやりたいことを楽しんでやってほしいと思っています。私自身はあまり感じないのですが、農業は3K(きつい、汚い、危険)と言われることが多いと思っています。そのため、好きじゃないと続けていくことはなかなか難しいのかなと思っています。

自分でも、1ヶ月くらい田植えをした後は「もう田植えをしたくない」とか、「ねぎなんか見たくない」と思うこともありましたが、植えた後の達成感や自分が育てたものを収穫したときの喜び、消費者に美味しいと言ってもらえたときの喜びは何物にも代えがたいと思います。私自身が最初に農業を始めたときは、「子供たちに美味しいものを食べさせてあげたい」、「父の作ったものを食べさせてあげたい」という思いでした。それが、家族から周囲の人へ、消費者へ、と変化していきました。

手間暇かけた分だけ、農作物が育った時の喜びは大きいので、その喜びをぜひ味わってほしいと思っています。

